

「国内デジタル印刷機ハードウェア市場規模予測」の概要

インフォトレイズ社主催の「プロダクションデジタル印刷／POD 市場コンファレンス 2016」に参加する機会を得ましたので、その中から「国内デジタル印刷機ハードウェア市場規模予測」の概要をご紹介します。

2015年のデジタル印刷機地域別販売台数を見ると、世界市場全体では22万台で、そのうち北米7万台、欧州5万台、日本2.7万台、中国1.5万台、その他6万台と、日本は全体の12.2%を占めている。

この2.7万台にはオフィス兼用機なども含まれており、月間印刷許容枚数(A4換算)10.1万枚以上のカラープロダクション専用機は約4,900台で前年比17%の増加となっている。

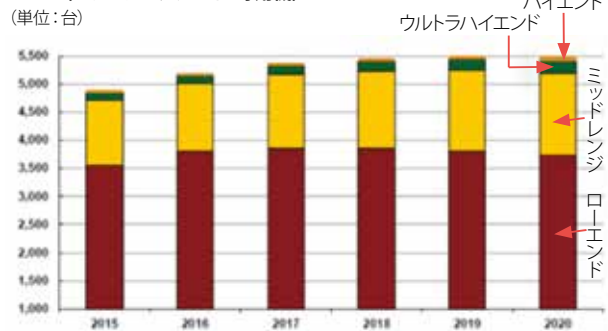
このカラープロダクション専用機の内訳はFig1の通り。

Fig 1 カラープロダクション専用機の内訳 (2015年)

月間印刷許容枚数 (A4換算)	比率 (%)
10.1万枚 - 30万枚 (ローエンド)	73
30.1 - 99.9万枚 (ミッドレンジ)	24
100 - 1,000万枚 (ハイエンド)	3
1,000万枚以上 (ウルトラ・ハイエンド)	1

また2015年～2020年の国内デジタル印刷機販売台数実績と予測はFig2の通りで、ローエンドはリプレース需要の継続により一定のシェアが続き、ミッドレンジやハイエンドは新世代製品の増加や、下位セグメントユーザーからのステップアップ等により成長が見込まれる。

Fig 2 2015年～2020年の国内デジタル印刷機販売台数実績と予測 (カラープロダクション専用機)

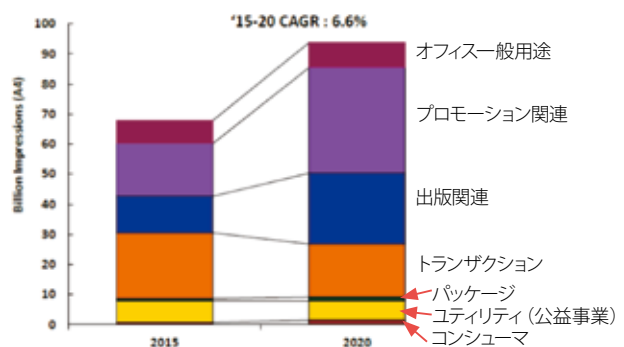


カラープロダクション専用機の設置台数は2018年以降横ばいとなるものの、ローエンド機から上位機種への移行が進むことにより生産キャパは継続的に伸びていく。一方プリントボリュームは2015年から2020年にかけて年平均6.6%の成長が見込まれており、デジタルプリントのボリュームが着実に伸びていくことが予測されている。

その内訳を見ていくとFig3のようになる。

Fig3 アプリケーショングループ別フォーキャスト (カラー&モノクロ 2015/2020)

(単位: 10億枚)



分野別で見るとプロモーション、出版、コンシューマ(フォトブックなど)の分野は順調な成長が見込まれる一方、トランザクション分野は電子化の浸透で減少が見込まれている。またユーティリティ分野も同様に減少傾向にある。

プロモーション分野ではDM、チラシ、クーポンなどターゲットを絞ったマーケティング用途や、ポスター、バナー、サインなどの大サイズプリントなどの用途が期待されている。出版分野では、書籍の在庫レス、新聞や雑誌におけるターゲットや地域に合わせたバージョニングや印刷の分散化などが期待される。

出典: Info Trends

FAPGA (Forum of Asia Pacific Graphic Arts) 2016

アジアの印刷連合会の会合である FAPGA の大会が、2016 年 10 月に上海で開催された。今回の参加国は日本の他、中国、オーストラリア、インド、マレーシア、フィリピンの 6 か国で、FAPGA 理事会のほか、Global Printing Summit Forum 2016、All-in-Print China2016 視察、Shanghai Publication & Printing College (上海出版印刷大学) の見学などが行われた。

Global Printing Summit Forum 2016 には 300 名以上が参加し、FAPGA メンバー各国代表からの発表、米国印刷機材団体 NPES、デジタルプレスの HP、および中国企業として印刷会社 Artron、機材ベンダー Masterworks、印刷インターネット通販会社 Esay Print からの発表があった。日本は「日本の印刷業界の環境への取組」を発表した。

All-in-Print China2016 は上海新国際展示会場で 10 月 18 日から 22 日まで開催され、8 万 m² の展示スペースに 724 社が出展し、来場者数は 76,818 人と、前回から 24% 増となっている。ただ展示に関しては大手印刷機メーカーの実機展示がなく、また HP やキヤノンといった大手デジタルプレスベンダーの出展がないなど、勢いに欠ける面が見えた。

上海出版印刷大学は 1953 年に上海市と中国新聞出版省によって設立された 3 年制職業学校で、出版・印刷分野の中心的人材を輩出している。学生数は約 5000 名、分野としては「印刷及びパッケージ技術」、「出版及び文化管理」、「アートデザイン・映画・テレビ・アニメ」の 3 分野がある。「印刷及びパッケージ技術」分野は 1 学年 600 名で、そのうちの 200 名



上海出版印刷大学



Global Printing Summit Forum 2016 日印産連発表

が印刷学科。米国 RIT (ロチェスター工科大学) を始めとし、英国、ロシア、ドイツ、フィンランド、フランス、カナダ、シンガポールなどの大学とも提携しており、海外からも学生を受け入れているほか、在学学生も海外に研修に行く者が多い。

同校は中国における印刷部門の技能五輪強化組織になっている。2013 年に銅メダル、2015 年には銀メダルを獲得しており、校内にはハイデル、小森、北人 (Beiren) といった印刷機のほか、HP Indigo、コニカミノルタ、Océ、エプソンラベルプリンターなどのデジタル印刷機、フンケラーやホリゾンの後加工機等も用意されており、設備の充実には目を見張るものがある。

この出張の報告会は 11 月 22 日に日印産連で開催され、その資料は以下の URL に掲載されております。
<https://www.jfpi.or.jp/topics/detail/id=547>



All-in-Print China2016 開会式